

2023年12月9日

報道関係各位

公益社団法人 日本産科婦人科学会

日本産科婦人科学会 メディアセミナーのご案内

日本の子宮頸がん予防を変える
—検診とワクチンの変革期に何をすべきか—

日本で、多くの若い女性の妊孕性や命を奪っている子宮頸がんの予防への取り組みが、大きな変革期を迎えています。約9年間にわたったHPVワクチンの積極的接種勧奨の差し控えが2022年度より中止となりましたが、接種率は依然、低迷している現状があります。

たとえば、2024年度には12歳～27歳相当の女性がHPVワクチン無料接種対象となりますが、同年度に17歳～27歳になる女性への「キャッチアップ無料接種」は2025年3月に終了予定です。また現在子宮頸がん検診では、従来の細胞診に替わって「HPV検査」という新たな検査方法の導入が検討されています。

このような子宮頸がん検診とHPVワクチンについての最新知識をメディア関係者にお伝えしたく、本会を企画いたしました。一人でも多くの方の参加をお待ちしております。

公益社団法人 日本産科婦人科学会

理事長 加藤 聖子

特任理事

子宮頸がん検診・HPVワクチン普及推進委員会

委員長 宮城 悦子

開催概要

〈開催日〉2024年2月9日（金）14時～16時（受付開始 13時30分～）

〈開催形式〉セミナー会場での対面型開催

※講演内容は後日、オンデマンド形式にて医療従事者、自治体関係者などに向けて動画配信を行います

〈会場〉コンファレンススクエア エムプラス ミドル1+2

東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル10階

〈オンライン配信〉後日、オンデマンド形式にて実施

〈プログラム詳細〉

- **開会のご挨拶** (14:00～14:05)
加藤 聖子 (理事長、九州大学)

- **パート I 「HPV ワクチン普及のために」**
(座長：井篁 一彦・理事、和歌山県立医科大学)
 - 1. HPV 感染と HPV ワクチンの働き (14:05～14:20)
長阪 一憲 (子宮頸がん検診・HPV ワクチン普及推進委員会委員、帝京大学)
 - 2. HPV ワクチン接種の勧奨差し控えがもたらしたもの (14:20～14:35)
上田 豊 (同委員会委員、大阪大学)
 - 3. HPV ワクチンの有効性と安全性について (14:35～14:50)
工藤 梨沙 (同委員会委員、新潟大学)

- **パート II 「子宮頸がん検診が変わる」**
(座長：川名 敬・理事、日本大学)
 - 1. 日本の子宮頸がん検診が変わる
 - ① 子宮頸がん検診 ～細胞診断から HPV 検査へ～ (14:50～15:05)
青木 大輔 (学会監事、国際医療福祉大学)
 - ② 検診としての HPV 検査の課題 (15:05～15:20)
森定 徹 (学会幹事、同委員会委員、杏林大学)
 - 2. 妊婦に公費で行う子宮頸がん検診の問題点 (15:20～15:30)
水島 大一 (同委員会委員、横浜市立大学)

—— 休 憩 (15:30～15:40) ——

- **パート III メディア関係者との意見交換会** (15:40～16:00)
(ファシリテーター：宮城 悦子・特任理事、横浜市立大学)
 - テーマ 1. 日本で HPV 検査単独検診の実施は可能か？
 - テーマ 2. HPV ワクチン接種率・子宮頸がん検診受診率を向上するために
 - テーマ 3. 国民への HPV 関連疾患予防啓発におけるメディアの役割

(以上、敬称略)

日本産科婦人科学会 メディアセミナー事務局 行

2024年2月8日（木） 〆切

■ オンラインでのお申し込み

<https://forms.gle/D8vRxfByvfdU2bFu5>



■ ファクスでのお申し込み

□欄に印をつけ下記ファクス番号までお送りください

ファクス：03-6456-4025

ご出席

ご欠席

貴社名

貴媒体名

ご所属・ご部署

お名前

お電話番号

メールアドレス

【撮影の有無 あり（スチールカメラ ENGカメラ） なし】